

# 独自のアイデアで世界を変える その可能性に迫る

取引先に英国を選ぶ5つの理由





# 英国発 イノベーション の魅力

ビジネスの世界では、誰もが利益の確保、イノベーションの促進、新たな価値の創出をめざして戦っています。

とはいえ、誰もがみなチャレンジャー。超巨大企業であっても、絶えず変革や適応、イノベーションを通じて競争力を維持しなければなりません（もちろん、いつかは優秀な企業が現れ、世代交代が進んでいきます）。しかも、イノベーションのペースはかつてないほどに加速しています。

クリエイティブ集団マシュマロ・レーザー・フィーストは  
サブミリメートルの精度で環境を再現しVR体験を創り出します。

# 英国を取引先に選ぶ5つの理由

## 目次

1

**現状に満足しない**  
英国はこれまでも、そしてこれから、イノベーションの発信地

4

**長期的視点に立った支援体制**  
安定性と専門性を発揮する英国企業のカ

2

**次代を拓くチャレンジャー**  
可能性に挑み続ける産業界や企業

5

**世界を舞台に取引に対応**  
インフラ、輸出金融、コラボレーションなど多彩なサポート

3

**確かな品質は英国の伝統**  
最高水準の規格がもたらす  
長期的に色褪せない高付加価値

# 英国から始まる 変革の波

変革を支援し評価する国、英国。ニュートンしかり、ファラデーしかり、ダーウィンしかり。近現代ではティム・バーナーズ＝リーやジェームズ・ダイソンに至るまで、常に新しい発見が、この地から生まれています。

英国には、ほかでは見られないような独自のイノベーションと起業家精神が息づいています。画期的な研究が盛んな大学からは、卓越した人材が世に送り出されています。各地域では「技術クラスター」が形成され、企業と国際的な研究機関の出会いを取り持つ場として、これまでの常識を打ち破り、次代を切り拓くイノベーションを促進しています。さらに、世界的に高い評価を集める法制度が皆様の知財をしっかりと守っています。

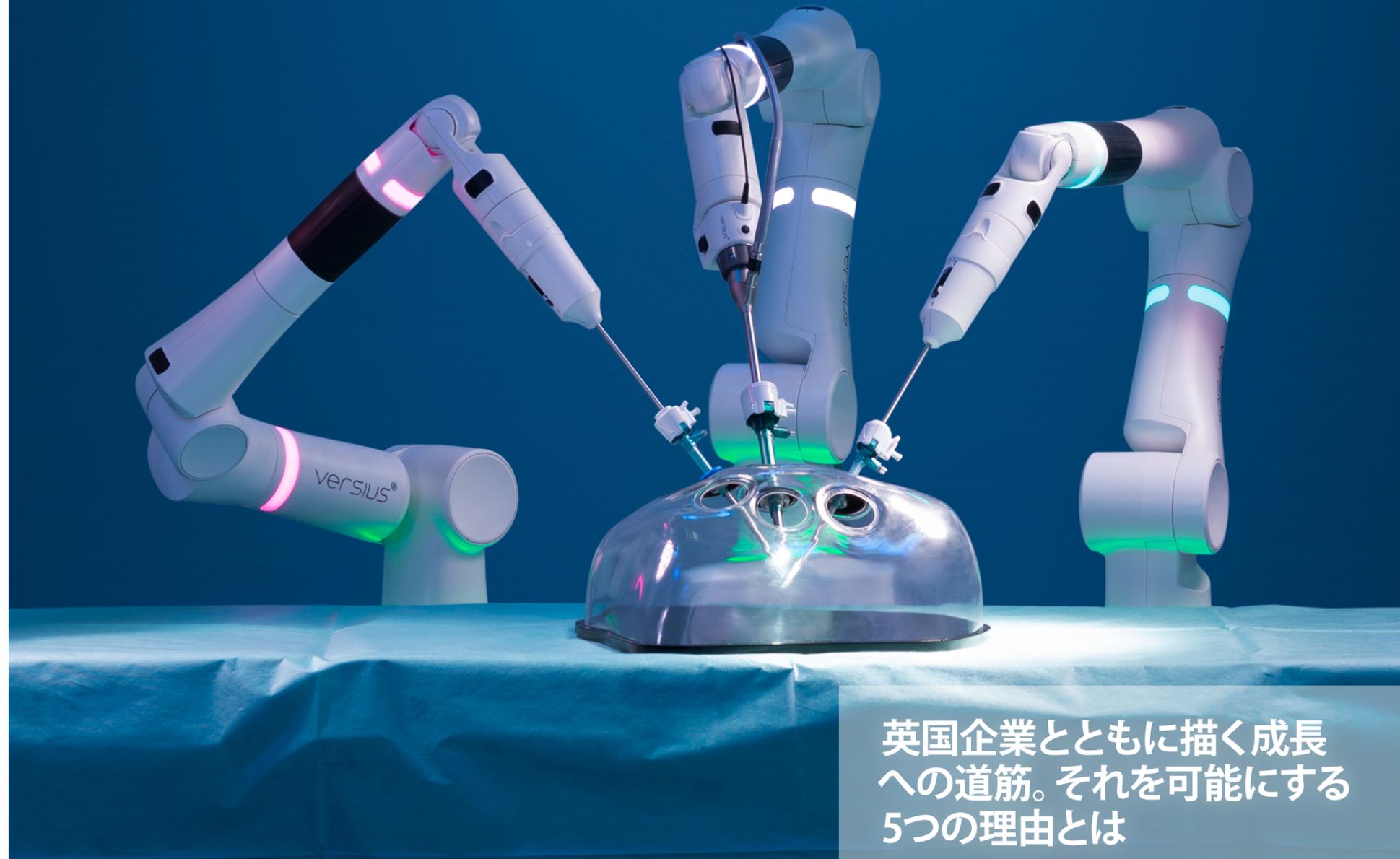
## 共に走り出す準備はできています

英国は、新たな発想や協働の機会を積極的に捉えて、ビジネスの成功につなげ、大小問わずグローバルな課題に取り組んでいます。こうした特性は、英国の企業やサプライヤーにもはっきりと表れており、極めて優れた製品やサービスの供給体制を整えています。

## 5つの根拠

英国が取引先の第一候補に挙がる、その理由を次ページからご紹介します。

CMRサージカル(CMR Surgical)は、画期的なロボットシステムで手術室の未来を変え、入院生活や治療に対する患者の満足度を高めています。



英国企業とともに描く成長への道筋。それを可能にする5つの理由とは

# 現状に満足 しない

さらに優れた方法、効率的な方法、費用対効果の高い方法は何か、常に模索している英国。

個人から、研究グループ、各種機関、企業に至るまで、絶えず常識に挑み、科学・技術分野に大きな進歩をもたらし、世界を変えてきた確かな伝統があります。

こうした業績は、1928年のペニシリンの発見や1950年代のDNA構造の発見、さらに時代は下って神経科学や医用画像処理、幹細胞発生学、体外受精 (IVF) の進展など多岐に渡ります<sup>1</sup>。世界各国のイノベーション能力や成果のランキングとして定評ある「グローバル・イノベーション・インデックス (GII)」で常に英国が上位の常連であることもうなずけます<sup>2</sup>。

<sup>1</sup> [www.great.gov.uk/international/content/industries/health-and-life-sciences/](http://www.great.gov.uk/international/content/industries/health-and-life-sciences/), (2019年12月確認済み)

<sup>2</sup> Cornell University, INSEAD, WIPO (2019). Global Innovation Index 2019: Creating Healthy Lives – The Future of Medical Innovation, Ithaca, Fontainebleau, and Geneva, [https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo\\_pub\\_gii\\_2019.pdf](https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo_pub_gii_2019.pdf) p35, (2019年12月確認済み)

## 期待に応える確かな成果

業界・分野を問わず、独創性あふれる豊富なアイデアや解決策をビジネスの原動力に。その実現をお手伝いする英国企業にご期待ください。

### 創造・発明に彩られた歴史

#### 2019年

ピーター・J・ラトクリフ教授がノーベル生理学・医学賞、マイケル・スタンリー・ウィッティンガム教授がノーベル化学賞を受賞

#### 2016年

ダブルネガティブ社が3回目となるアカデミー賞視覚効果賞を受賞

#### 2013年

サリー・サテライト・テクノロジー社が開発したレーダー衛星「NovaSAR」がナビゲーション・監視を目的とした通信に革命

#### 2004年

マンチェスター大学が炭素材料グラフェンを発見

#### 1967年

ゴッドフリー・ハウズフィールドがCTスキャナーの概念を着想

#### 1880年

ジョゼフ・スワンが電球の製造・販売を開始

#### 1825年

ジョージ・スチーブンソンが旅客用鉄道を発明

#### 2017年

リチャード・ヘンダーソン教授が低温電子顕微鏡法の開発でノーベル化学賞を受賞

#### 2015年

オックスフォードナノポア社がUSB接続の携帯型DNAシーケンサー「MinION」を発売

#### 2012年

スサンナ・クラークが3Dプリンターによるカスタムメイドの置換人工関節を開発

#### 1978年

世界初の体外受精児が誕生

#### 1926年

ジョン・ロジャー・ベアードが初めて動く映像を送信

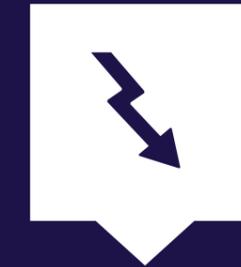
#### 1843年

エイダ・ラブレスが世界初のコンピュータプログラムの1つを作成

#### 1668年

アイザック・ニュートンが反射望遠鏡を発明

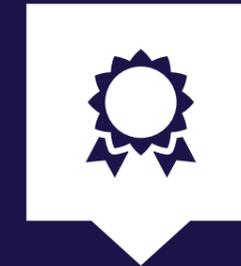
## 英国発のイノベーションが支持される理由



### 1. 政府の支援

英国政府は、産業戦略の一環として、将来の成功に欠かせない重点分野を見極め、研究・開発に資金を振り向けています。

英国の規制の枠組みはイノベーションを後押しし、変革の担い手に信頼と安心をもたらします。



### 2. 人材

世界大学ランキング上位10校のうち4校が英国を拠点としています<sup>3</sup>。さらに英国には世界トップクラスの人材が集まっています。例えば、ソフトウェア開発者などプロフェッショナルデベロッパーは実に80万人以上が活躍しています<sup>4</sup>。



### 3. 設備投資

2019年、英国は110億米ドル以上の設備投資を集めました。これは、欧州最大規模です。ちなみにドイツは59億米ドルでした<sup>4</sup>。

<sup>3</sup> QS World University Rankings 2020, [www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2020](http://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2020), (2019年12月確認済み)

<sup>4</sup> Atomico, SLUSH, Orrick (2019) The State of European Tech, 2019, [stateofeuro.com](http://stateofeuro.com), (2019年12月確認済み)

# 次代を拓く チャレンジャー

業界最前線で活躍する英国企業。ここでは、金融、デジタル技術、医薬品、自動車、クリエイティブ、精密農業の6つの主要分野で、新たな解決策を見つけ出し、成功への道を歩んでいる英国企業をご紹介します。

# 英国のフィンテックが築く 金融の新たな姿

## 誰もがメリットを享受できる時代へ

過去10年間に、世界の中で誰もが認めるフィンテックの中心地に成長した英国。2018年上期だけで、世界のフィンテック投資に占める国別シェアは、米国を上回っています<sup>5</sup>。しかも、グローバルなフィンテック企業の本社所在地では、1,000社を集めるロンドンが世界首位の座にあり、第2位にはニューヨーク(939社)が続いています<sup>6</sup>。

フィンテックには、人と金融の関係を変える力があります。透明性や効率を高め、規制のあり方に影響を与え、最終的には消費者と企業の双方の保護につながります。

## 英国でフィンテックが繁栄する理由

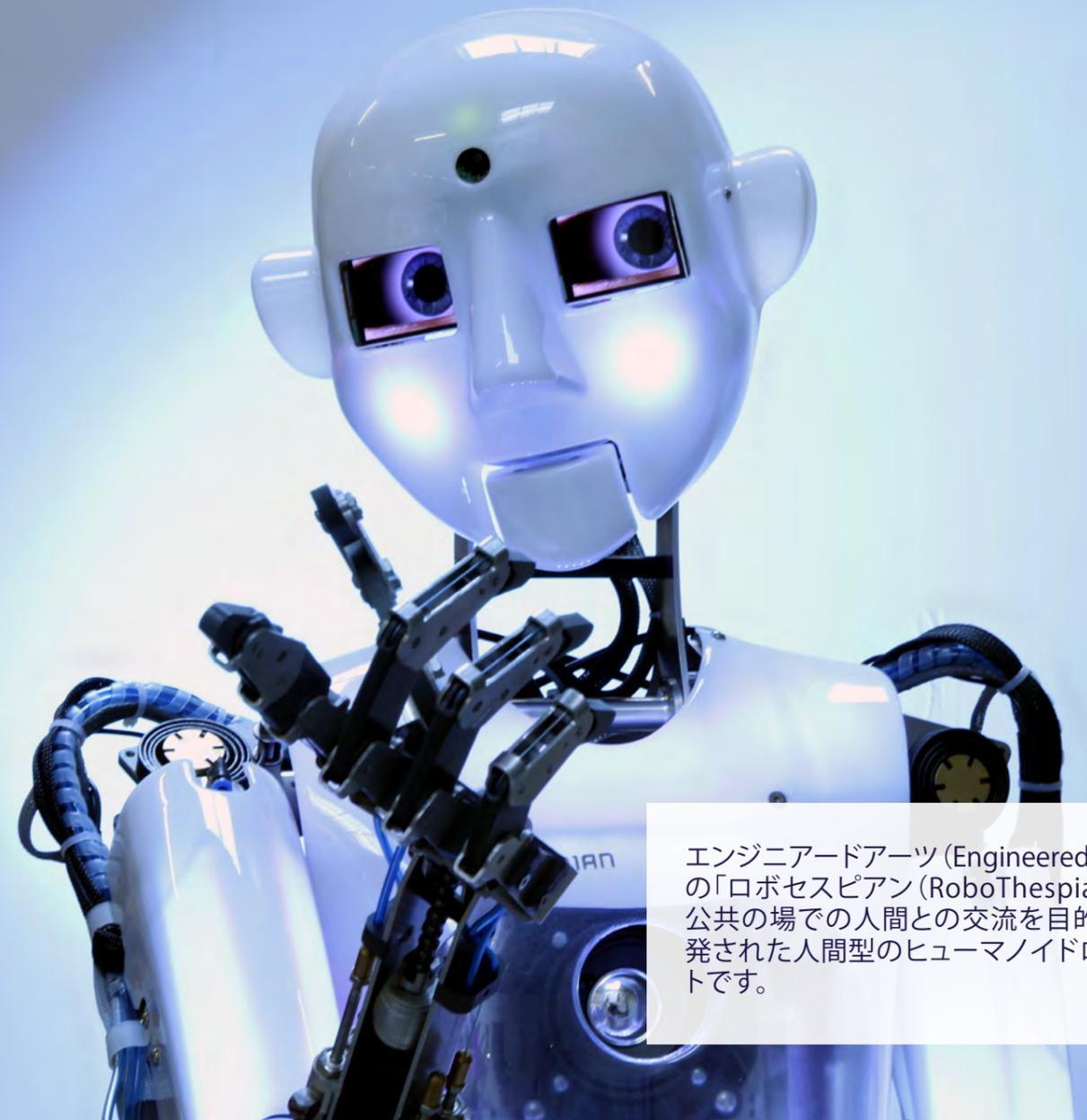
英国でフィンテック分野が発展を遂げている背景として、次の3つの要素が挙げられます。

- 強力な金融業界
- 新しい技術に好意的な英国の顧客
- イノベーションを後押しする規制環境

英国は、フィンテックの中心地として、他の追随を許しません。

## フィンテックとは

フィンテック(金融テクノロジー)は、従来の金融の手法に革新をもたらし、テクノロジーを活用して高度なサービスを消費者や企業に提供する新しい産業です。



エンジニアードアーツ(Engineered Arts)の「ロボセスピアン(RoboThespian)」。公共の場での人間との交流を目的に開発された人間型のヒューマノイドロボットです。

<sup>5</sup> www.thecityuk.com/assets/2018/Reports-PDF/94053cfc7b/Key-facts-about-the-UK-as-an-international-financial-centre-2018.pdf (2019年12月確認済み)

<sup>6</sup> Workthere, www.workthere.com/media/791337/global-fintech-report.pdf (2019年12月確認済み)

# 英国の フィンテックは 消費者が主役

## 事例

モンゾー (Monzo) は、実店舗を一切持たず、オンライン専業でモバイル特化型という割り切った形で従来の銀行に挑戦状を突きつけました。2015年創業ながら、すでに300万人以上の顧客が資金管理に利用しています。同社によれば「金融商品をつくるのではなく、問題を解決することが本業」と言います。モンゾーはインテリジェントな請求予測、支出・支払いの即時通知のほか、支払時にお釣りの端数を自動的に貯金に回してくれる機能などを取り揃え、バンキングの管理権限を顧客に委ねる方針を打ち出しています。同社が時価総額26億米ドル以上と評価されるのも、うなずけます。

<sup>7</sup> Department for International Trade (2018) UK FinTech State of the Nation, [assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/801277/UK-fintech-state-of-the-nation.pdf](https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/801277/UK-fintech-state-of-the-nation.pdf) (2019年12月確認済み)

<sup>8</sup> EY (2017) FinTech Adoption Index 2017 (2019年12月確認済み)

<sup>9</sup> Department for International Trade (2018) UK FinTech State of the Nation

<sup>10</sup> EY (2017) FinTech Adoption Index 2017 (2019年12月確認済み)



**1,600** 社以上

英国のフィンテック  
企業数<sup>7</sup>

**64,000** 社

ロンドンの金融・専門サービス  
企業数は世界一の集積度<sup>8</sup>

**28%**

2018年の世界全体のフィンテック投資総額のうち対英投資の占める割合は世界一<sup>9</sup>

**42%**

英国のフィンテック普及率  
(グローバル平均は33%)<sup>10</sup>

時価総額26億米ドル以上のネオバンク、**モンゾー**。本社はロンドン。

# 英国発の技術が生み出す競争優位

## 欧州のAIのハブ

英国企業が開発する画期的な技術は、いち早く目標を達成する足がかりになります。その好例がAI(人工知能)。桁外れに複雑な作業を実行する「スマートマシン」の開発に威力を発揮するだけでなく、機械学習とディープラーニングによって日常の業務を高速に、自然に、そして正確に処理することも可能です。

現在、**欧州のAI関連企業の3分の1**が英国に集中しており、他の欧州諸国に比べて2倍の集積度を誇ります<sup>11</sup>。それだけでなく、他の技術分野でも英国は最先端を走っています。例えば、テック系ユニコーン企業(企業価値が10億米ドル超のスタートアップ企業)の数では、英国は世界第3位の地位にあります<sup>12</sup>。

## サイバー犯罪との戦いに勝つAI

AI技術の最前線に立つ英国企業の1つが、世界屈指のサイバーAIプラットフォームを手がけるダークトレース(Darktrace)です。同社の自己学習AIは、ヒトの免疫システムの生物学的原理をモデルに、組織内のネットワーク、デバイス、ユーザーごとに「活動パターン」を突き止めます。クラウド、メール、IoT(モノのインターネット)、ネットワーク、産業システムを監視し、「活動パターン」からの逸脱があれば、AIが検知して自律的に対応します。ダークトレースのAIは、あらかじめ用意したルールやブラックリスト、シグネチャに依存する方式ではないため、従来のツールが見逃してしまうような極めて巧妙なサイバー攻撃の脅威も見つけ出して阻止できます。

## 5Gの展開

世界でもいち早く画期的な5G(第5世代モバイル通信システム)の実証実験に乗り出すなど、従来の通信速度を大きく上回る高速モバイル通信の実用化に一足先に近づいている英国。携帯電話大手のボーダフォンでは、サルフォードにあるハイテク拠点・メディアシティUK(MediaCity UK)で5Gの実証実験を開始し、現在、同社の5Gネットワークは30以上の自治体で利用できます<sup>13</sup>。同じく携帯電話大手のEEは、ロンドンのオールドストリート地区で実証実験に着手し、2020年末までに26都市で5G基地局への切り替えを見込んでいます<sup>14,15</sup>。

### 事例

5Gをさらに発展させるソリューションを生み出したのが、エディンバラに本社がある**ピュアライファイ(pureLiFi)**です。同社の開発した技術「LiFi」は、電波(RF)ではなく光を使って移動通信のデータを伝送します。この技術では、電波に付きものの干渉などの問題が解消されるため、携帯端末で数ギガバイト/秒(Gbps)クラスの高速度通信を実現し、セキュリティも強化されます。

「英国なら、インドで求められているものがあると心から確信しています。それは優れたデザインと卓越した技術です。我々がその水準に達するまでには数年かかるはずですよ」

アーリン・キャピタル(Aarin Capital) 会長  
マニパル・グローバル・エデュケーション  
(Manipal Global Education) 会長  
インフォシス元取締役  
T・V・モハンダス・パイ

**バッファローグリッド(BuffaloGrid)**の太陽光発電技術で、携帯電話充電とインターネットサービスが利用可能になり、誰もがネットワークにアクセスできる未来への道を開きます。

<sup>11</sup> Creative Industries Council, Catapult Digital, London & Partners, SPRINGWISE (2019), Createch. Ones to Watch  
<sup>12</sup> Tech Nation (2019), Tech Nation Report 2019: UK Tech on the Global Stage  
<sup>13</sup> www.vodafone.co.uk/network/5g (2019年12月確認済み)  
<sup>14</sup> EE (2019) EE Switches on 5G Trial Sites in East London, newsroom.ee.co.uk/ee-switches-on-5g-trial-sites-in-east-london/ (2019年12月確認済み)  
<sup>15</sup> EE, ee.co.uk/why-ee-5g-on-ee/5g-uk-coverage?CTTag=CT\_Ser\_5GHUB\_FeatureBanner\_LocationPage\_Q1\_2019 (2019年12月確認済み)

# 病気の根絶に貢献する 英国の生命科学とメドテック

英国は、これまで効果的な長期治療法がなかった疾患・障害の克服に有望視されている細胞治療・遺伝子治療の医療クラスターとして、欧州屈指の地位を築いています。

こうした治療は急速に主流になりつつあります。世界最大の総合医療サービス事業である英国の「国民保健サービス (NHS)」は、他に類を見ない実証実験の場となっており、国民医療保険制度としては、世界に先駆けて総合診療にゲノム医療を取り入れました。

こうした状況は、英国に充実した研究基盤があることを考えれば、決して不思議ではありません。生命科学・医学系の大学ランキング上位3校のうち2校が英国にあり、生命科学研究分野での論文被引用件数の評価指標で見ると、英国は先進7カ国 (G7) で首位にあります<sup>16</sup>。

## メドテックで医療を身近に

患者の遠隔診断に道を開くメドテック (医療技術)。効果的な医療をさらに多くの人々にもっと手軽に、手ごろなコストで提供できるようになります。世界の有力デジタル医療企業100社をまとめた「2018年グローバルデジタルヘルス100」<sup>17</sup>では、4社に1社が英国企業となるなど、英国の存在感が際立っています。

### 事例

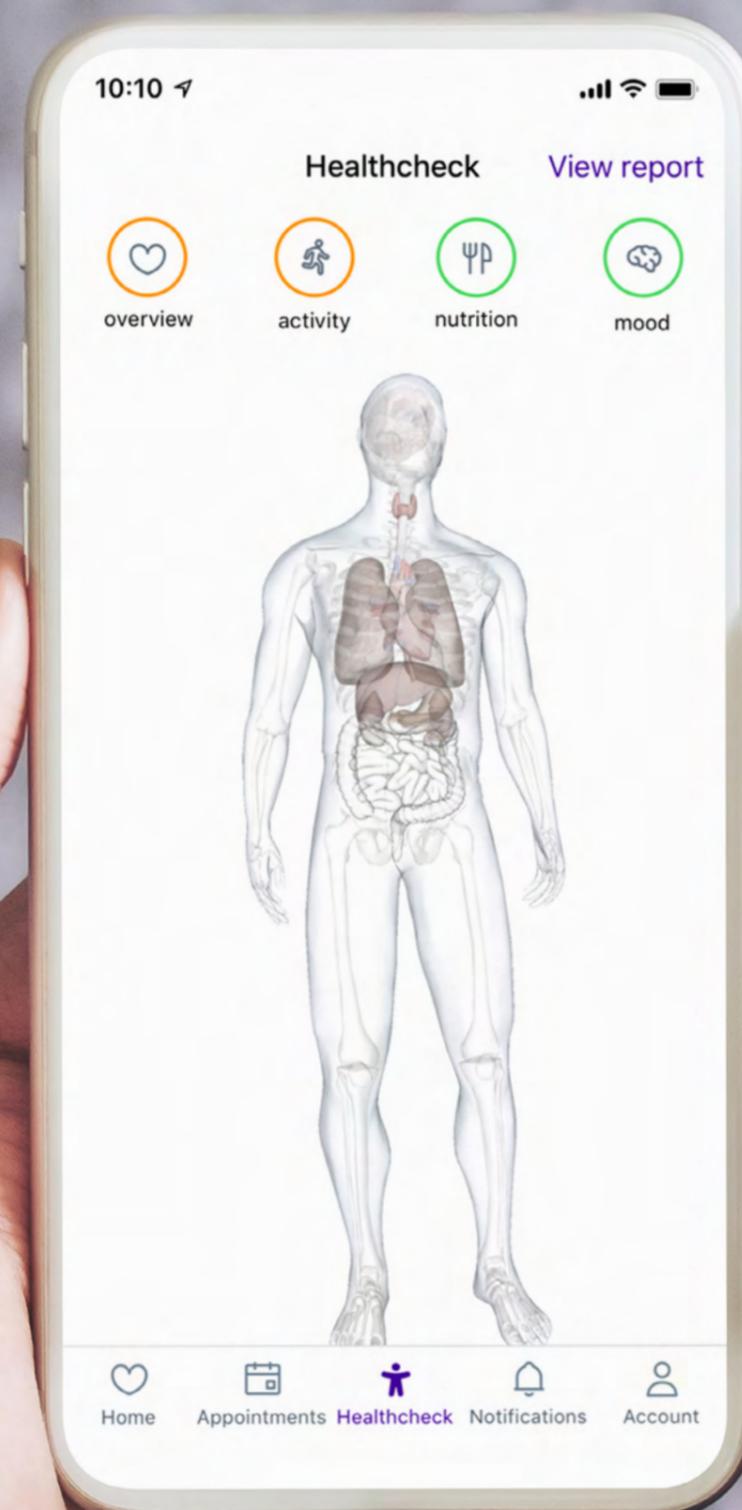
デジタル分野で活躍するパイオニアとして注目を浴びているのが、英国の医療系スタートアップ企業、**バビロンヘルス (Babylon Health)** です。同社は、AIの力を生かし、医療の専門知識を蓄積することにより、個々の利用者のニーズに合わせた健康評価、医学情報・トリアージ (治療優先順位づけ) に関する助言、ビデオ通話による24時間年中無休の対面診療に対応します<sup>18</sup>。すでに欧州、アジア、アフリカで登録ユーザー数が360万を突破したほか、米国や中国でも基盤を強化しており、誰もがあまねく医療を受けられるユニバーサルヘルスケアの分野で大きな話題を集めています<sup>19</sup>。

<sup>16</sup> www.topuniversities.com/university-rankings/university-subject-rankings/2019/life-sciences-medicine (2019年12月確認済み)

<sup>17</sup> The Journal of mHealth (2019) The Global Digital Health 100 (2019年12月確認済み)

<sup>18</sup> The Journal of mHealth (2019) The Global Digital Health 100 (2019年12月確認済み)

<sup>19</sup> Babylon Health, www.babylonhealth.com/ (2019年12月確認済み)



バビロンが提供するAI活用の無償アプリ「ヘルスチェック (Healthcheck)」では、ユーザーの心身の健康状態が現在・過去の生活習慣によってどのような影響を受けているのか把握できます。最新の疫学データや研究によって得られた科学的根拠を取り込むことで、疾病リスクを左右する健康上の因子を見つけ出し、生活習慣上の有益なヒントを提示します。

# 未来を切り拓く英国の電気自動車・自動運転車

これから起こるインフラ変革に向けてポールポジションを獲得している英国。自動運転車・電気自動車向け技術の開発で最前線を走り、安全で環境に配慮した運転を実現しようとしています。

## フル充電で未来を変える

英国は、電気自動車向けバッテリー開発でも世界をリードしています。3.2億米ドル規模の投資プログラム「ファラデー・チャレンジ」は、欧州市場の生産性ギャップを埋めることを目的とし、2025年には650億米ドル規模まで成長する見込みです。

## 目が離せない英国の自動車業界

2018年の英国の自動車輸出台数は、総生産台数の78%に相当する1,237,698台でした<sup>20</sup>。

英国産車は世界160カ国に輸入されています<sup>21</sup>。

英国内には2万5000カ所を超える公共電気自動車充電スタンドが設置されています<sup>22</sup>。

自動車製造業に直接雇用されている労働者数は16万8000人に上ります<sup>23</sup>。

82.3万人が英国の自動車産業で働いています。

F1 (フォーミュラ1™) 全10チーム中6チームの本部が英国にあります<sup>24</sup>。また英国は、フォーミュラEのグローバル本部でもあります。



### 事例

2014年にオックスフォード大学の教授2人が設立した**オックスボティカ (Oxbotica)** は、自動運転技術の開発を手がける世界屈指の企業です。同社では、物理学、数学、AIを複雑に組み合わせて自動運転車用ソフトウェア「ユニバーサルオートノミー (Universal Autonomy)」を開発しています。このソフトウェアは、すでに英国内のさまざまな分野で実証実験が進められています。具体例として、オンラインショッピングサイト「オカド (Ocado)」の自動運転車による購入品配送、ガトウィック空港内の無人シャトル輸送などが挙げられます<sup>25</sup>。

**オックスボティカ**のオフロード環境向け自動運転システム

<sup>20</sup> The Society of Motor Manufacturers and Traders (SMMT) (2019). Motor Industry Facts 2019

<sup>21</sup> The Society of Motor Manufacturers and Traders (SMMT) (2019). Motor Industry Facts 2019

<sup>22</sup> Go Ultra Low <https://www.goultralow.com/ev-charging-point-map/> (2019年12月確認済み)

<sup>23</sup> <https://www.smmt.co.uk/industry-topics/uk-automotive/> (2019年12月確認済み)

<sup>24</sup> Formula 1 <https://www.formula1.com/en/teams.html> (2019年12月確認済み)

<sup>25</sup> Oxbotica. Oxford. <https://www.oxbotica.com/about-us/> (2019年12月確認済み)

# 想像力を刺激する 英国のクリエイティブ産業

英国は、巨大なクリエイティブサービス産業の一大拠点です。同産業は、建築から出版まで驚くほど多岐に渡る分野があり、英国経済の5.5%を占めています。また、英国の雇用全体の1割がクリエイティブ産業で、産業別雇用数では世界をリードする英国の金融業を70万人も上回る雇用を創出しています<sup>26</sup>。

## 独創性あふれる才能

英国の広告代理店は、独創性あふれる作品に特に定評があります。カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバルでは2005年以来、実に1,500件以上の受賞数を誇り、国民1人当たり受賞数で見ると世界首位の座にあります。2019年には英国の広告業界から90件もの作品が入賞を果たし、米国に次いで第2位となりました<sup>27</sup>。

## お馴染みのゲームや映画も

「レッド・デッド・リデンプション2」、「グランド・セフト・オート」シリーズなど、国際的に特に定評あるゲームは、英国の開発者の手で誕生しました<sup>28</sup>。

また、映画に目を転じると、2018年の世界の興行収入全体のうち、英国映画が23%を占めており、アカデミー賞5部門受賞、英国アカデミー賞13部門受賞を始め、世界の有力映画賞で25の賞に輝きました<sup>29</sup>。

## 「クリエイテック」とは？

「クリエイテック」はクリエイティビティ（創造）とテクノロジーを合成した造語です。クリエイティブ産業の中でも、円滑で首尾一貫した顧客サービスから、インタラクティブでイマーシブなコンテンツづくりまで、あらゆる面で人々の暮らしを急速に変えている刺激に満ちた分野です。この分野でも英国は定評があり、2018年にはテクノロジー系プロジェクトがベンチャーキャピタルから欧州で最高額となる78億米ドル以上の投資を集めています<sup>30</sup>。

<sup>26</sup> Department for Digital, Culture, Media & Sport (2018) DCMS Sectors Economic Estimates 2018: Employment

<sup>27</sup> Advertising Association (2019) UK Advertising Exports Report 2019 [www.adassoc.org.uk/policy-areas/uk-advertising-exports-report-2019/](http://www.adassoc.org.uk/policy-areas/uk-advertising-exports-report-2019/) (2019年12月確認済み)

<sup>28</sup> Rockstar North, Edinburgh, [www.rockstarnorth.com/#about](http://www.rockstarnorth.com/#about) (2019年12月確認済み)

<sup>29</sup> British Film Institute (2018) UK Film and British Talent Worldwide 2018 (pg3)

<sup>30</sup> Creative Industries Council, Catapult Digital, London & Partners, SPRINGWISE (2019), Createch. Ones to Watch



英国の舞台美術家エス・デブリンが2020年ドバイ国際博覧会のために手がけた「ポエムパビリオン (Poem Pavilion)」。

人工知能が詩を生み出すパフォーマンス型構造を特徴とするパビリオンです。

### 事例

英国のクリエイテックの最前線に立つアルケミーイマーシブ (Alchemy Immersive)。同社ではAR (拡張現実)、VR (仮想現実)、MR (複合現実)、さらにはAIも駆使して没入感あふれる体験を生み出しています。ある博物館では、同社スタジオがデイビッド・アッテンボローと手を組み、古代生物に命を吹き込む展示を開発しました。この展示は、3Dモデリング、ARホログラム、ハンドトラッキング (コントローラなしに素手でVR空間を操作できる機能) を組み合わせ、来場者が古代生物や棲息空間を体感できるものでした。また、同社は、2017年にデイビッド・アッテンボローによるVR作品『グレートバリアリーフダイブ』を制作、英国アカデミー賞を獲得しています<sup>31</sup>。

**フレームストア (Framestore)** は、アカデミー賞や英国アカデミー賞など数々の受賞歴を誇る制作スタジオで、ロンドン、ニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴ、モントリオール、ムンバイにオフィスがあります。フレームストアでは、映画、テレビ、没入型体験、広告向けに素晴らしい映像を生み出しています。同社が最近手がけた作品には、テレビドラマ『ダーク・マテリアルズ/黄金の羅針盤』(BBC/HBO)、映画『アベンジャーズ/エンドゲーム』(マーベル・スタジオ)、映画『メリー・ポピンズ リターンズ』(ディズニー)、映画『ブレードランナー 2049』(アルコン/ソニー)、テーマパーク「ライオンズゲート・エンターテインメント・ワールド」のアトラクション5種、テレビドラマ『ゲーム・オブ・スローンズ』(HBO) の没入感あふれるシーン、世界的なブランド各社のコマーシャルなどがあります。

<sup>31</sup> Alchemy Immersive, [alchemyimmersive.com/](http://alchemyimmersive.com/) (2019年12月確認済み)



『アベンジャーズ/エンドゲーム』  
©マーベル スタジオ  
この10年で最高の興行収入を記録したヒット作の視覚効果はフレームストアが担当

# 英国のアグリテックで 食糧供給の省力化と 供給量増強を両立

人類の福祉を考える時、農業ほど重要な産業はまずありません。しかし、世界の人口が増加する一方、食糧生産に適した土地が減少し、環境変化で生産が困難になるなど、農業は重圧にさらされています。土地の有効利用や、水、農薬、エネルギー消費の削減に向けて、新たな技術が求められています<sup>32</sup>。

英国は、古くから農業改革に取り組んできました。20世紀を迎えるころには英国が第2次農業革命を先導し、現在も第4次農業革命に向けて世界をリードしています。今日、英国企業は、精密農業を軸としたアグリテックの最前線で活躍しており、環境管理や地球観測、センサー、ビッグデータ、人工知能、ロボットを活用し、廃棄物削減と効率化に取り組んでいます<sup>33</sup>。

## 農業を一変させる英国企業<sup>34/35</sup>

**ルートウェーブ (RootWave)** は、除草剤を一切使用せずに電流で除草する技術「ルートウェーブ」を開発しました。大規模展開にも対応できる持続可能な新しい方式として、除草剤に取って代わります。

**チューバースキャン (Tuberscan)** は、市場に出せるジャガイモの収穫量を5~10%高める技術を開発しました。このシステムは、レーダー、地下スキャン、AIを駆使して作物の生育状況を監視し、最適な収穫期を特定します。

**aiスコープ (aiScope)** が開発したスマート作物防疫プラットフォームは、スズメノテッポウ(穀物栽培で最も一般的な雑草)の防除対策にAIを活用することで、年7億6000万米ドルのコスト削減効果が期待できます。

## 事例

農業のあり方を刷新しようとしている企業の1つ、**スモール・ロボット・カンパニー (Small Robot Company)**。同社は、農家の収入を最大40%増加させる一方、コストを最大60%削減することを目標に掲げています。その方法とは、個々の作物を管理する小型ロボットを投入することでした。せっかく耕起作業を最小限に抑えた「ミニマム耕起栽培」を導入しても、トラクターによる耕起作業自体が膨大なエネルギーを消費するうえ、重量のある農機を使うことで土壌を踏み固めてしまう結果、耕起作業が基本的に必要になります。さらに、悪天候になれば、農家が農地を管理できないこともあります。その点、軽量の小型ロボットを使えば、エネルギー消費や農薬使用量を削減し、収量増につなげることができます。

スモール・ロボット・カンパニーの「ディック (Dick)」は無農薬除草の自動運転ロボット。

<sup>32</sup> UK Research & Innovation (2019). Ingenious innovations to help transform UK farming, [www.ukri.org/innovation/industrial-strategy-challenge-fund/transforming-food-production/](http://www.ukri.org/innovation/industrial-strategy-challenge-fund/transforming-food-production/) (2019年12月確認済み)

<sup>33</sup> Advertising Association (2019) UK Advertising Exports Report 2019

<sup>34</sup> UK research and Innovation (2019). Ingenious innovations to help transform UK farming, [www.ukri.org/news/ingenious-innovations-to-help-transform-uk-farming/](http://www.ukri.org/news/ingenious-innovations-to-help-transform-uk-farming/) (2019年12月確認済み)

<sup>35</sup> Department for Environment, Food & Rural Affairs (2019). Government announces projects worth £22 million to transform food production, [defra.blog.gov.uk/2019/06/28/government-announces-projects-worth-22-million-to-transform-food-production/](https://defra.blog.gov.uk/2019/06/28/government-announces-projects-worth-22-million-to-transform-food-production/) (2019年12月確認済み)

# 確かな品質は 英国の伝統

英国の製品・サービスの強みは、競争力ある価格だけではありません。

英国企業は卓越性と品質に徹底的にこだわり、ライフサイクルの最初から最後まで優れた効率とサステナビリティを発揮する製品・サービスを提供しています。



# 品質保証

## 実効性ある規制

英国企業の業務に関する基準や慣行は、世界トップクラスの規制の枠組みの下で管理されています。英国には、民間航空局、ケア品質委員会（医療）、広告基準局など、90に上る規制機関があります。こうした規制機関が各業界の業務のあり方を常に改善し、高品質の製品で定評ある英国の評判を高め、維持しています<sup>36</sup>。

## 規制だらけでは？いえ、その逆なんです

英国の規制が成功しているのは、規則や命令で産業界に重荷を背負わせるのではなく、むしろ産業界との協力関係を築いているからです。英国は、製品やサービスを開発する企業を支援し、各社と協調して動くことにより、産業界のニーズを最優先しています。

英国産業界は消費者の体験を常に充実させていく必要があります。産業界がこうした取り組みを継続できるように、英国は規制関連で年に53億米ドルもの資金を拠出しています。競争・市場庁の運営経費に1ポンドを投じることにより、消費者は、10ポンド相当の直接的な経済的利益を受けることになるかと推定されます<sup>37</sup>。

## 金融のコンプライアンスを支援

英国の金融行動監視機構は、グローバルファイナンシャルイノベーションネットワーク (GFIN) を立ち上げ、フィンテック企業が複数の国・地域にまたがって規制を遵守し、画期的な商品の実証実験を実施できるよう支援しています<sup>38</sup>。現在、GFINには香港やシンガポール、オーストラリア、バーレーンの主要監督当局など、50の機関が参加しています<sup>39</sup>。

## 自動車分野では公道テストが進行中

また、英国は、コネクテッドカーや自動運転車の公道テスト実施に向けて、世界トップクラスの規制の枠組みである2018年自動運転車・電気自動車法を施行するなど、各種取り組みを通じて自動車業界に有利な規制環境を整備しています。

### 事例

英国では産業部門ごとに**業界団体・協会**があり、一歩する規格・標準の策定や開発に貢献しています。

中でも特に高い評価を受けているのがBSI（英国規格協会）です。同協会は31カ国に拠点を置き<sup>40</sup>、世界各地で組織の優位性向上に寄与しています。企業各社の性能向上やリスク低減を支援し、製品・サービスの継続的な改善に貢献しています。

また、IoD（経営者協会）は、英国の経営者の支援や代弁のほか、指針づくりを担っています<sup>41</sup>。

2004年にマンチェスター大学のアンドレ・ガームとコンスタンチン・ノボセロフの両教授が分離に成功した**グラフェン**。

<sup>36</sup> GREAT Global Trade Campaign, Qualitative Research 2019

<sup>37</sup> National Audit Office (2019) A Short Guide to Regulation. (pg.4)

<sup>38</sup> GFIn (2019). One Year On, The Global Financial Innovation Network reflects on its first year. (pg.3)

<sup>39</sup> Financial Conduct Authority (2019) Full List of GFIn Membership, www.fca.org.uk/firms/global-financial-innovation-network (2019年12月確認済み)

<sup>40</sup> British Standards Institution (2019) Fast facts and figures, www.bsigroup.com/en-GB/about-bsi/media-centre/Facts-and-figures/(2019年12月確認済み)

<sup>41</sup> Institute of Directors (2019) About, www.iod.com/about (2019年12月確認済み)

# 歴史が証明する 高品質へのこだわり

## 2013年

消費者保護、金融市場保護、すべての部門での競争促進を目的に、金融行動監視機構 (FCA) 設立<sup>44</sup>。

## 1999年

保健・福祉関係者向けの指針策定と助言を担う国立医療技術評価機構 (NICE) 開設<sup>45</sup>。

## 1947年

芸術分野の品質向上支援を目的に英国映画テレビ芸術アカデミー (BAFTA) 設立<sup>47</sup>。

## 1901年

世界初の国家標準化機関としてBSI創設<sup>48</sup>。

## 現在

英国はノーベル賞受賞者数で米国に次ぐ第2位<sup>42</sup>。直近では2019年に英国から2人が受賞<sup>43</sup>。

## 2006年

施設・人材・技術の支援を目的に、保健・介護研究を対象とした英国最大の資金拠出機関となる国立衛生研究所 (NIHR) 開設。

## 1948年

医療のグローバルスタンダード確立に向けてNHS (国民保健サービス) 設立<sup>46</sup>。

## 1906年

王室認可の下、IoD (経営者協会) 設立。

<sup>42</sup> [fullfact.org/news/how-many-nobel-prizes-has-uk-won/](http://fullfact.org/news/how-many-nobel-prizes-has-uk-won/) (2019年12月確認済み)

<sup>43</sup> The Nobel Prize (2019) All Nobel Prizes, [www.nobelprize.org/prizes/lists/all-nobel-prizes/](http://www.nobelprize.org/prizes/lists/all-nobel-prizes/) (2019年12月確認済み)

<sup>44</sup> The FCA (2019) <https://www.fca.org.uk/>

<sup>45</sup> National Institute for Health and Care Excellence (2019)

<sup>46</sup> Historic UK (2019) The Birth of the NHS. <https://www.historic-uk.com/HistoryUK/HistoryofBritain/Birth-of-the-NHS/> (2019年12月確認済み)

<sup>47</sup> BAFTA (2019) History of BAFTA. <http://www.bafta.org/heritage/history> (2019年12月確認済み)

<sup>48</sup> British Standards Institution (2019) Our History: In the Beginning. <https://www.bsigroup.com/en-GB/about-bsti/our-history/> (2019年12月確認済み)



「当社のお客様にとって、『英国』は品質であり、ノウハウであり、遺産であり、伝統の印です。英国ブランドへの信頼があるからこそ、お客様にとっては最良の商品を選ぶことができたという安心感につながります。私たちが英国ブランドに信頼を寄せているのは、お客様を裏切らないからなのです」

Isolée (スペイン) CEO ロドリゴ・メネンデス

# 長期的視点に立った 支援体制

英国には、変革のエキスパートである優れた企業が多数あります。こうした企業は、確固たる基盤を持ち、専門分野に精通したパートナーとして、お客様の国際展開を支援する体制を整えています。

- きめ細かい配慮、細部へのこだわり、不断の努力で顧客ニーズに対応
- ベストプラクティスを追求するDNAを生かし、丁寧、確実にお客様の支援に取り組む姿勢
- すべての企業が確かな規制の管理下であり、知財やプライバシーが確実に保護されているため安心して取引が可能
- 英国企業は優れた評判と何世紀にも及ぶ豊富な実績を背景に、世界の国々と信頼第一の取引を実施

## 信頼の取引

あらゆる部門で実効性ある規制が適用されている英国。言い換えれば、英国のサプライヤーやパートナーはガバナンスの面でも取引保護の面でも信頼できることにほかなりません。消費者も確実に保護されます。例えば金融分野では、金融行動監視機構 (FCA) が5万9000社以上を対象に規制しており<sup>49</sup>、消費者保護とコスト削減に取り組んでいます。2019年はFCAによる介入で消費者は22億米ドルのコストを削減できるものと見込まれます<sup>50</sup>。

## 公正な交渉を実現する法制度

英国の法律事務所や裁判所は、サプライヤー契約から買収・合併、紛争解決に至るまで、あらゆる国際取引を支援します。英国の司法制度は、最高水準の透明性と節度が期待できることから世界的に定評があるだけでなく、商事関連訴訟のうち国際取引に関わるものが実に78%に及ぶなど、英国法は世界の企業仲裁全体の40%を処理しています<sup>51</sup>。

<sup>49</sup> Financial Conduct Authority (2019) About the FCA, www.fca.org.uk/about/the-fca. (2019年12月確認済み)

<sup>50</sup> Financial Conduct Authority (2019) Annual Report and Accounts 2018/19. (pg.10-11), www.fca.org.uk/about/the-fca (2019年12月確認済み)

<sup>51</sup> TheCityUK (2018) Legal Excellence Internationally Renowned. (pg.4)

<sup>52</sup> Ministry of Justice (2016) The UK Legal Sector. (pg.5)



## 知財を重視

英国には優れた知財法があります。英国の法廷弁護士や事務弁護士は豊かな国際経験を持ち、専門知識に精通し、複雑なIT関連事件の解決経験が豊富です<sup>52</sup>。また、多くの弁護士が学術的な知識にとどまらず、実務的なノウハウでビジネスの現場のニーズに合わせて対応する態勢を整えています。

英国が金融の世界の中心であることは、金融業界関係者でなくても実感できます。

- 金融サービスの最大輸出国<sup>53</sup>
- ユーロ圏を上回るユーロ取扱高
- 中国人民元の取扱高は中国に次いで第2位
- ロンドンの金融街シティに集まる銀行本店数は世界一



## プライバシーも安心

企業にとっても消費者にとっても、英国企業との取引で気になるのがプライバシー保護。この面でも英国企業は確かな実績があり、安心して取引ができます。EU一般データ保護規則 (GDPR) に合わせて国内で法制化された2018年データ保護法では、組織、企業、政府による個人情報利用のあり方が規定されています。



## 信頼のある取引

英国企業は、取引先として健全性が期待できます。実際、多くの企業が世界トップクラスの金融機関の支持・支援を受けています。

<sup>53</sup> TheCityUK (2018). Key Facts About the UK as an International Financial Centre 2018, TheCityUK, www.thecityuk.com/research/key-facts-about-the-uk-as-an-international-financial-centre-2018/ (2019年12月確認済み)

# 世界を舞台に 取引に対応

グローバルなつながりが緊密になる中、世界で最もオープンな国際的ビジネス環境のひとつとして定評ある英国には、真に競争力あるサプライヤーが揃っています。

## 英国の優れたビジネス環境を支える5つの柱

1. ビジネスに最適な国ランキング世界1位(フォーブス誌「ビジネスに最適な国」ランキング)<sup>54</sup>
2. 先進の空港・港湾インフラ
3. グローバルな連携に適した時間帯にあり、標準語は英語
4. あらゆる産業部門を対象に、公正でオープンな公共調達制度を確立
5. イノベーションとコラボレーションを基盤とした明確な産業戦略

<sup>54</sup> Forbes Best Countries for Business (2019), [www.forbes.com/best-countries-for-business/list/](http://www.forbes.com/best-countries-for-business/list/), (2019年12月確認済み)

# 世界に誇る充実のインフラ

英国のサプライヤー各社が手がける高品質で画期的な製品は、先進の輸送インフラで経済性を損なうことなく迅速に顧客のもとに届けられます。英国から海外への輸送であっても、戦略的な地域へのインフラ投資を背景に、需要に十分に見合った輸送力が確保されています<sup>55</sup>。

## 空輸

英国には最大のハブ空港であるヒースロー空港があるだけでなく、国内に40以上の国際空港が整備されており、欧州最大の空のネットワークが構築されています<sup>56</sup>。このため、取引先サプライヤーの拠点からほど近い便利な距離にすくなくとも1つの国際空港が存在します。

## 海運

英国は島国とあって、輸出入の95%近くに海運が利用されています<sup>57</sup>。港湾部門は欧州最大級の取扱高を誇り、年間54億トンの貨物を扱っています<sup>58</sup>。現在、英国で進行中の港湾・海運への投資は金額ベースで約22億米ドルに上ります。

イングランド南部では、フェリクストウ港で20フィートコンテナ換算 (TEU) で年間400万個のコンテナ取扱量があります。

イングランド北部では、英国最大の複合港であるハンバー地区を始め、12の主要貿易港があります。また、ピールポーツが運営するリバプール港の成功を足がかりに<sup>59</sup>、国際貿易を担う最新鋭の海の玄関口となるリバプール2も、5億2000万米ドルを投じて開発されました。

スコットランドでは、フル稼働の大型大深水港7港があり、100億米ドルに上るスコットランドの国際貿易の大部分が取り扱われています。

### 事例

アトランティックコンテナライン (Atlantic Container Line, ACL) は、リバプール港でのコンテナ作業とロールオン・ロールオフ作業について2035年まで15年間の契約延長に合意しました。今回の契約延長は、ACLが大西洋を挟んだ英国・北米間で拡大する貿易量に手応えを感じていることに加え、リバプール港に対する同社の全面的な関与や50年以上に渡って育ててきた強力な関係を如実に物語っています<sup>60</sup>。

<sup>55</sup> Northern Powerhouse (2019) The North. Made of Investors. <https://northern-powerhouse.gov.uk/business-environment/> (2019年12月確認済み)

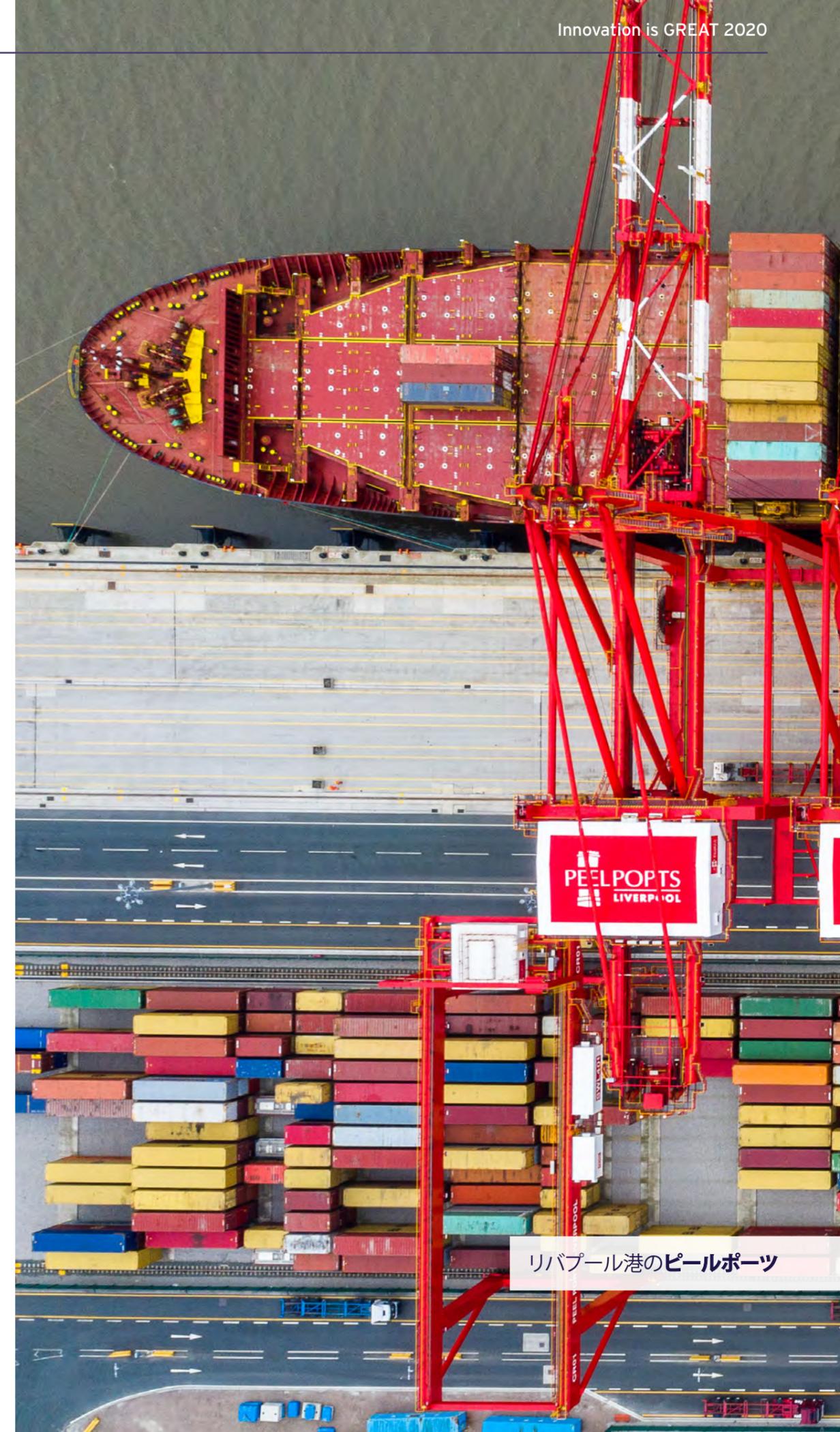
<sup>56</sup> HM Government (2018) Aviation 2050: The Future of UK Aviation. (pg.6) [https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/769695/aviation-2050-web.pdf](https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/769695/aviation-2050-web.pdf) (2019年12月確認済み)

<sup>57</sup> Department for Transport (2017) Transport Infrastructure for our global future. (pg.8)

<sup>58</sup> Department for Transport (2017) Transport Infrastructure for our global future. (pg.8)

<sup>59</sup> Peel Ports, [www.peelports.com/ports/liverpool](http://www.peelports.com/ports/liverpool), (2019年12月確認済み)

<sup>60</sup> Peel Ports, [www.peelports.com/news/2019/atlantic-container-line-signs-15-year-agreement-with-peel-ports-group](http://www.peelports.com/news/2019/atlantic-container-line-signs-15-year-agreement-with-peel-ports-group), (2019年12月確認済み)



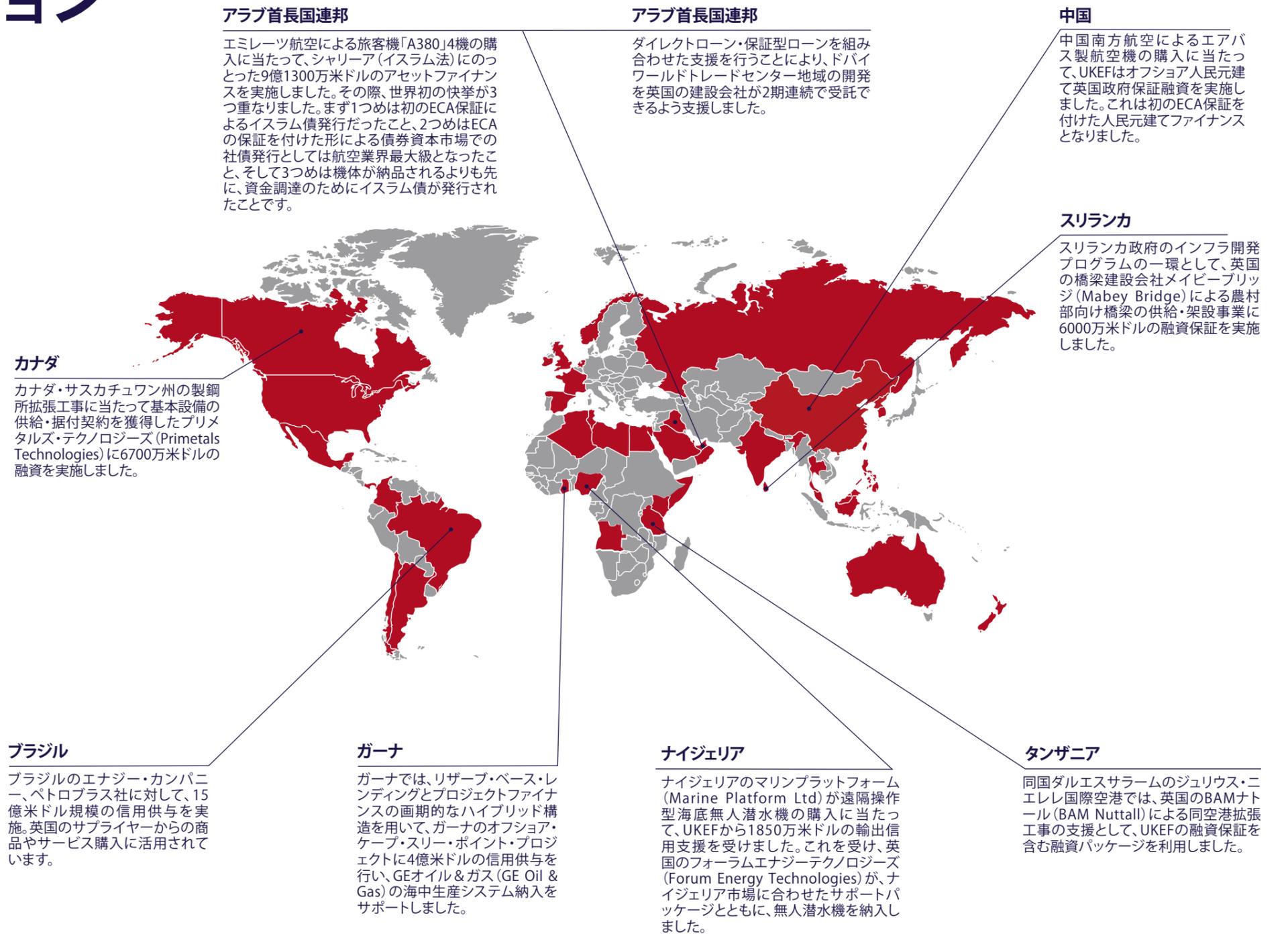
リバプール港のピールポーツ

# 柔軟で競争力のある 資金調達ソリューション

国内企業の海外輸出や事業成長を後押ししている英国。650億米ドルの輸出ファイナンス・保険予算が下支えしています。<sup>61</sup>

海外顧客が英国の製品・サービスを調達する際にも、輸出信用機関として世界最古の歴史を誇る英国輸出信用保証局(UKEF)を通して、画期的で柔軟性と競争力の高いファイナンス条件で支援します。

UKEFは2013年から2017年の5年間、医療、エンジニアリング、航空宇宙、石油・ガス、建設、インフラ、技術など多岐に渡る産業部門で50カ国以上を対象に200億米ドルを超える輸出契約の信用供与を実施しています。



<sup>61</sup> UKEF <https://www.great.gov.uk/project-finance/> (2019年12月確認済み)

## グローバルな規模で築く協力体制

英国は、既存の産業、そして未来の産業の発展を支援しています。英国の産業戦略で「グランド・チャレンジ」と呼んでいる重要課題は、どのような地域にも共通して見られる課題と言えます。そこで、お客様が社内で独自に育んだ優秀な人材に、世界各地のパートナーの卓越したノウハウを組み合わせるコラボレーション精神の醸成が重要になります。

## 大西洋を隔てた科学・技術の共同研究

米国との協定をきっかけに、科学分野の最重要問題を探るプロジェクトで共同研究が進んでいます。

## 英国とインドの提携

英国は、ニュートン・バーバ基金や英国インド教育研究イニシアティブなどのプログラムを通じて、インドとの間で、価値ある研究・イノベーションのパートナーシップづくりを続けています。

## 自動運転車、すでに商用運行中

ウエストフィールド・テクノロジー・グループ (Westfield Technology Group) の自動車「POD」はヒースロー空港の協力の下で開発されました (ウルトラグローバル (Ultra Global Ltd) の基盤技術によるプラットフォームを使用)。ヒースロー空港の第5ターミナルとPODパーキングを結ぶ「ヒースローPOD」はすでに商用運行を開始しており、500万キロの自動運転実績があります。

## 未来への戦略

**英国の産業戦略**では、世界一の革新的な経済をめざすビジョンを掲げています。

この戦略には、革新性あふれる有望企業を対象とした260億米ドル以上の投資など、人材、ビジネス、インフラを網羅した大規模投資の政策も盛り込まれています。また、生産性を強化するとともに、お客様に英国の最先端の知識、製品、サービスを提供する産業部門ごとの施策も打ち出しています。

4項目からなる「グランド・チャレンジ」は、重要課題に対処する協調型グローバル・パートナーシップづくりを英国が推進する際の柱になっています。

**AI・データ経済:**英国は人工知能・データ革命の最前線をめざします。

**クリーン成長:**クリーン成長を志向する世界的な流れを受け、英国産業界の優位性を最大限に高めます。

**モビリティの未来:**人、製品、サービスの移動のあり方を変える世界的なリーダーをめざします。

**高齢化社会:**高齢化社会のニーズに応える一助として、イノベーションの力を活用します。

## 時代はデータサイエンス

英国では、データ分析を手がける新興企業に投資するプログラムが30種類以上あります。大英図書館に本拠を置くアラン・チューリング研究所 (The Alan Turing Institute) は5500万米ドルの資金を調達したデータサイエンス研究機関で、英国の有力大学13校、産業界、公共部門、第3セクターのパートナーが手を組み、データサイエンスとAIの研究を通じて、科学、経済、社会の重要課題に取り組んでいます。

また、同研究所では、日本の3つの有力研究機関と連携し、ロボット工学、データの倫理的利用、医学研究の分野で新たな共同研究に取り組んでいます。

## フィンテックの“架け橋”

英国は、香港、韓国、シンガポール、中国との間で「フィンテックブリッジ」の協定を結び、相互に市場を開放しています。この協定では、政府、規制当局、民間部門が連携し、知識移転の促進、二国間貿易・投資の拡大をめざします。



**ウエストフィールドPOD**  
イノベートUK (Innovate UK) の  
助成を受けた自動運転車

# 各国の 英国政府問い合わせ窓口

## まずはお問い合わせを

各国にある国際通商省 (DIT) 窓口にお問い合わせください。

世界108カ国の177カ所に窓口を設置しています。具体的なご相談をお受けするほか、イベント等のお知らせもお送りしています。また、DITでは、貴社と英国のサプライヤーのマッチング支援にも対応しています。実際、多くの英国サプライヤーが皆様の国ですでに事業を展開しています。

## 取引関係づくりに

皆様のビジネスニーズに合わせて最適なビジネスパートナーをお探しします。

## ファイナンス

英国輸出信用保証局 (UKEF) では、柔軟性が高く、競争力あるファイナンス制度をご用意しています。

## SNSで情報発信中

DITのツイッターとLinkedIn (リンクトイン) で、最新動向や産業ニュース、イベント、英国政府による支援制度の詳細などの情報を発信しています。





Department for  
International Trade

[great.gov.uk](https://www.great.gov.uk)

英国国際通商省 (DIT) は、世界各地での英国の貿易促進と対英投資の誘致活動を総合的に担当しています。国際通商政策の策定、事業の支援、開放的な通商外交戦略の実施を担う専門政府機関です。

#### 免責事項

本文書に記載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、英国国際通商省は、誤り、遺漏、誤解を招く記述の一切について責任を負わないものとし、記載した個人、法人、会社その他の組織の適格性に関して保証するものではなく、また責任を負うものでもありません。

#### Copyright

©Crown copyright 2020

本文書 (ロゴを除く) は、オープン・ガバメント・ライセンス (Open Government Licence) の条件の下、いかなる形式または媒体でも無償で再利用できます。

同ライセンスは以下でご覧いただけます。

[www.nationalarchives.gov.uk/doc/open-government-licence](http://www.nationalarchives.gov.uk/doc/open-government-licence)

**E-mail:** [psi@nationalarchives.gov.uk](mailto:psi@nationalarchives.gov.uk)

本文書中で当方が第三者に著作権があると判断した情報をご利用になりたい場合には、当該著作権保有者の許可が必要です。

本文書は、[gov.uk/dit](http://gov.uk/dit)でもご覧いただけます。